

研究・調査報告書

報告書番号	担当
286	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Relationship between suicide risk, traumatic experience, and substance use among juvenile detainees 少年拘留者における自殺リスク、外傷経験、薬物使用の関連	
執筆者	
Chapman JF, Ford JD	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Suicide Res. 12(1): 50-61, 2008	
キーワード	
拘留、少年、MAYSI-2、自殺、検査、外傷、米国	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>少年裁判に関連した、少年における自殺念慮は、多くの要因が関わる現象である。本報告では、自殺念慮の要因間の関連を、各種の検査法を用いて検討した。</p> <p>方法：</p> <p>Connecticut 拘置所に連続して収容された少年 757 名より、Massachusetts 少年検査 2 (Massachusetts Youth Screening Instrument 2, MAYSI-2) , 自殺念慮質問票 (Suicidal Ideation Questionnaire (SIQ), 薬物使用、新入期間中の暴力の危険因子および保護因子について回答を得た。</p> <p>結果：</p> <p>2 変量、および多変量解析 (身体因子、MAYSI-2 スコアを調整) では、外傷経験および MAYSI-2 のアルコールおよび薬物使用サブスケールと SIQ の間に相関を認めた。</p> <p>結論：</p> <p>自殺の危険のある少年を理解することと検出において、外傷性ストレスおよび薬物使用の兆候が有用である可能性がある。</p>	